
みんなの事情

紅月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みんなの事情

【Nコード】

N4918M

【作者名】

紅月

【あらすじ】

世界は人の集合体で、人が集まればそのすべてが人の集合体である。「この町にはいろいろとぶっ飛んだ人が住んでいる。」そう言った彼。「そういう彼もそれなりにぶっ飛んでいると思うの。」その彼をそう評して友人に語る彼女。そしてその友人はこう言った。「大丈夫、この世の人はみんなどこかずれているから。」これは少しずつで、大きくずれて、それでも日常に生きている人たちのいるちよつと変わった町での、いつもの出来事。

これは作者が思ったことをつらつらと書き連ねる短編連載です。不

定期連載です。

絵の鑑賞者（前書き）

あなたがよかったと思ったところをすべて教えてください。
それを私の意見にしますから。

絵の鑑賞者

「ねえ、春日は本気を出していると思う？」

目の前の女性、私の母親にそうたずねられた。帰ってきて、パソコンを立ち上げて遊んでいたら、唐突に。

「ねえ、春日は本気を出してる？」

わからない。私の本気なんて私が知っているわけがない。でも、わからないと答えたら、目の前の女性はさらに言及してくるだろう。ポツリと呟いた、わからないという言葉は彼女には伝わらなかつたらしい。また同じことをたずねてくる。やっぱり、わからない。

価値基準の違う相手と話をしていようなかみ合わなさ。常々感じて居心地の悪さ。こうやって一対一で話していると私の中のその感じがいつせいに浮き彫りになる。このままでは埒が明かないので答えることにする。

「出していると思うよ。」

「そう、春日は今、出しているって言ったけど、私にはそうは見えないの。」

当たり前だ。私は出している、なんて言っていない。出していると思うと言ったのだ。誰よりも自分の本気を知らない私が断言できるはずもない。目の前の女性は喋り続ける。でも私にとっては右から左で頭の片隅にすらその言葉は残らないし、響かない。

「このままで、いいと思ってるの？」

二つ目の質問。でも、それも、わからない。だめだとは思っていても、だめだと言うことができない。この泥沼のように楽しい生活を、私はどこまでも肯定しているから。

「春日はさ、いつつもどうにかなると思ってるよね。」

私はどうにかなるなんて思ったことは一度もない。私は私自身が『どうにもならない存在』であることを重々承知しているのだから。確かに、中学の時はどうにかなると思っていたこともあったけれど、

今の私には『どうにかなる』と思うことすらない。私はただ、どうにもならない、何にもならない、何にもなれないということを理解しているだけ。それすらも、実感としてはわからない。

何にもなれない、どこにも辿りつけない、どこかを目指すことができない。ただただ日々を受け流し、受け入れず、過ぎ去らせていく。

私に感動を与えられない、私の心にも頭にも残ることがないこの世界はきつと私には理解できない絵画なのだろうと私は思っている。描かれた絵は作者の意を汲んではいても、それが見る人にその意が伝わらなければ絵として成り立っていても絵画としては成り立っていない。絵がどれだけその意を伝え、人を感動させようにも人にその感動という感情が存在していなければ意味がないのだ。

つまるところ、私には感情が存在しないのだろう。

いつの頃からか、壊れたように楽しいとしか感じなくなつた私。感動した、泣けてきた、そのどれもが薄っぺらく感じて生きてきた私。私の発言を聞いてポジティブだと言った人がいたけれども、それは間違いだ。

楽しいとしか感じない私は、楽しい方向にしか考えることができない。

それもけつきよくはポジティブだということに繋がるのかもしれないけれども、何か根本的にずれている気がしてならない。

「私の言っていることを、春日は間違っていると思う？」

また、質問。実はこの質問までの間のことをみんな聞いていて、聞き流していたからよく覚えていないのだけどきつと目の前の女性が言っていることは間違いではないのだろう。ああ、この会話を早く終わらせてしまいたい。

でも、わからない。目の前の女性が何を望んで私に話しかけているのか、私にどう答えて欲しいのか、そして何を問っているのか。

わからないわからないわからないわからないわからないわからない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4918m/>

みんなの事情

2010年10月8日14時14分発行